



「認定人間中心設計専門家」 2015年度資格認定に関する説明会 2015/12/1

NPO法人 人間中心設計推進機構

HCD専門資格認定センター

HCD-Net認定専門家・スペシャリストの数

専門家	402名
スペシャリスト	105名

2009年度設立～2015年11月現在

今年度は、
第7期 認定専門家
第3期 認定スペシャリスト
の試験です。

アジェンダ

Part **1** 認定HCD専門家制度とは（伊藤） 3

Part **2** 認定専門家・スペシャリストに求められるコンピタンス（吉武） 15

Part **3** 申請書類の書き方（和井田） 36

Part **4** まとめ 42

Part 1

専門資格認定制度とは？

- 認定制度設立の趣旨、ねらい
- 誰のための制度か？
- 何を認定するのか？（コンピタンスマップ）
- どうやって審査するのか？
- 応募～合格発表まで

認定制度設立の趣旨

- (1) 人間中心設計(HCD)活動領域、役割の明確化
- (2) 人間中心設計(HCD)活動の活性化

正式名称

- 正式名称:「特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構認定 人間中心設計専門家」「～人間中心設計スペシャリスト」
- 英語正式名称:「Certified Human Centered Design Professional」
- 「Certified Human Centered Design Specialist」

※特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構 ⇒ HCD-Net

※人間中心設計 ⇒ HCD

認定組織

- 人間中心設計専門資格認定センターにて
認定制度確立・認定実施

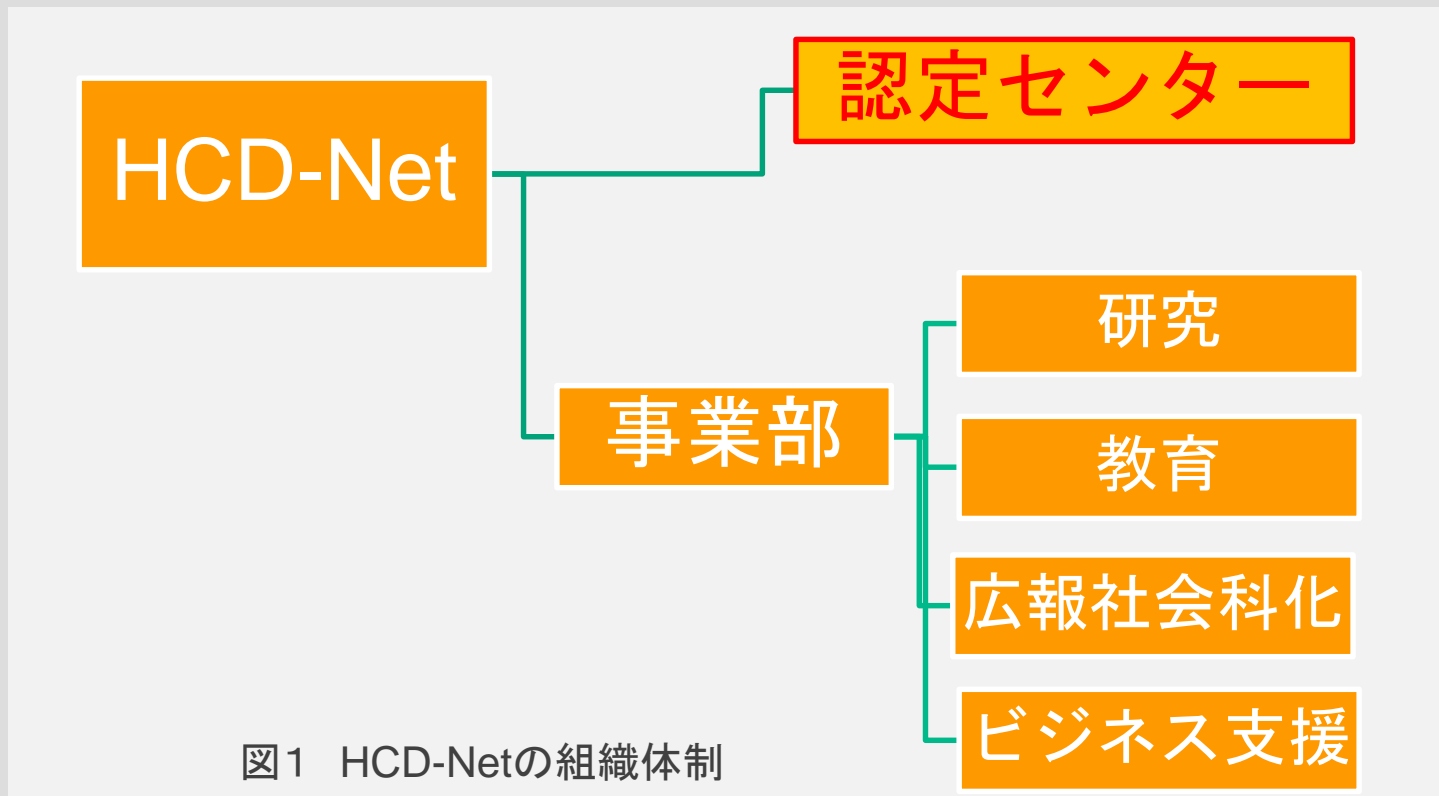


図1 HCD-Netの組織体制

認定制度設立の背景

- 魅力的なユーザー体験 (UX) の実現
- 使いやすい商品やシステム、サービスの実現

HCD 専門家が 必要です !

という認識を広めたい

認定制度設立の背景

- 魅力的なユーザー体験 (UX) の実現
- 使いやすい商品やシステム、サービスの実現

HCD 専門家が 必要です !

という認識を広めたい

でも、HCD 専門家の定義がなかった

認定制度設立のねらい

製品・システム・サービス開発における人間中心設計プロセス
を実践できる専門家を認定する仕組みを確立する。

- ✓ 専門家にお任せくださいとアピールできるように
- 専門家に必要とされる能力を明らかにする。
 - ✓ 実践に必要な能力を満たしている人を認定する
- 専門性を高めたい人の活動目標を明らかにする。
 - ✓ 何を学習／実践すれば良いのかを示す
- 関係者に専門家の存在を認知させ活用をうながす。
 - ✓ 専門家の役割や活用メリットを認知させる
 - ✓ 誰に依頼すればよいのかを示す

誰のための制度か？ (for Whom?)

• 専門家Ⅰ … 専門家 認定7期目

- HCD 専門領域で後進の育成指導ができる人
- 実業界での実務経験5年以上
- プロジェクトマネージャー、ウェブプロデューサー、コンサルタント、ユーザビリティ専門家、等

• 専門家Ⅱ … スペシャリスト 認定3期目

- 要求仕様やUI仕様などの設計活動およびユーザー調査・テストなどの活動が自力でできる人
- 専任および兼務として HCD活動を遂行できる人で実務経験が浅い人
- 実業界での実務経験2年以上
- プランナー、マーケティング・リサーチャー、システム・エンジニア、リクワイヤメント・エンジニア、Webディレクター、UIデザイナー、ユーザビリティ評価者、取扱説明制作者、等

• 専門家Ⅲ … 初級者向け 制度検討中

- HCD の基礎知識を有する人 (例: 発注担当者、学生、新入社員、一般社員)

応募資格

- 人間中心設計専門家:人間中心設計・ユーザビリティ関連従事者としての**実務経験が、5年以上**あること。

- 大学院在学中における実務活動は実務経験年数として含むことができます。

- 人間中心設計スペシャリスト:人間中心設計・ユーザビリティ関連従事者としての**実務経験が、2年以上**あること。

- 大学院在学中における実務活動は実務経験年数として含むことができます

<共通>

- 人間中心設計専門家としてのコンピタンスを実証するための実践事例が3つ以上あること。

- 学歴については特に制限ありません。

どうやって審査するのか？ (How?)

•書類審査方式

- 実践プロジェクトの実績を書き込む(右図参照)

•審査基準

- HCD-Netが定めた一定の(実践)基準を満たしたことを認めるもの

•審査の流れ

- 審査員4名以上で、匿名化された「実践活動記述書」の内容を採点
- 担当する審査員の審査結果が分かれた場合には、HCD-Netの定める判定委員会において最終判定

審査書類の構成

- A 受験申込書
 - A-1 基本情報
 - A-2 学歴・職務経歴書
- B 実践活動記述書
 - B-1 プロジェクト経歴／業務履歴
 - **B-2 プロジェクト記述書**
★本年度改訂しました
 - B-3 コンピタンス記述書
- C 参考資料
 - C-1 教育履歴
 - C-2 論文・著作
 - C-3 作品、成果物

何を認定するのか？ (What?)

- ・実践プロジェクトにおけるコンピタンスの各能力の発揮を評価する。

人間中心設計専門家 コンピタンスマップ (2015年度版) 参照

後ほど説明します

応募から申請書類提出まで

ホームページから申請書一式を入手(ダウンロード) 11/25~

「受験申込書A-1, A-2」をホームページから提出(アップロード) ~12/25

受付係より
「応募受理通知書」、「受験番号」
「受験料振り込み口座」

受験料振込み(12,000円) ~1/15

申請書類一式郵送 & ホームページから提出(アップロード) ~1/25

合格発表から登録、更新

合格発表 3/31

合格者に通知

ホームページで受験番号を発表

専門家:登録料(18,000円)・資格維持費(12,000円)振込
スペシャリスト:登録料(11,000円)・資格維持費(9,000円3年分)
振込

「合格証書」発行

ホームページで氏名公開

HCD活動、更新ポイント取得

3年後

資格更新申請、更新料(5,000円)振込み

2014年度(第6期)

•第6期の審査結果

- 計51人の人間中心設計専門家が、52名の人間中心設計スペシャリストが認定された

- 現在、402名の認定専門家、105名の認定スペシャリスト

最後に：受験者の方へ一言

審査書類の記入に要する時間について

**週末1回頑張れば
何とかかなる...**

1月23(土)24(日)25(月)

最後に: 受験者の方へ一言

審査書類の記入に要する時間について

無理ですからあ

お勧めしません

- 2か月弱を有効に使ってね -

1月23(土)24(日)25(月)

Part 2

認定専門家に求められるコンピタンス

- 人間中心設計専門家認定とコンピタンス
- HCD専門家コンピタンス体系と2013年度コンピタンスマップ
- コンピタンスの見直しについて
 - ✓ 従来のコンピタンスマップとの差異他
- 注意の必要なコンピタンス

人間中心設計専門家認定とコンピタンス

- HCD-Netが実施する、人間中心設計専門家の認定では、[HCDに関するコンピタンスの評価](#)によって認定を行っている。

コンピタンスとは？

- 専門業務の遂行に必要な、能力・技能・知識

HCD専門家

=

HCDに関する
コンピタンスを
適切に備えた人

人間中心設計専門家認定の基本的な考え方

- HCD-net専門家資格認定委員会が定義した“コンピタンスマップ”に基づいた申請書(コンピタンス記述書)を、申請者が詳細に記述したもののから、**そのコンピタンスが十分であるかを読み取ることで判定する。**

コンピタンスマップ

A: HCD基本コンピタンス				B: プロジェクトマネジメントコンピタンス	C: 導入・推進コンピタンス	L: テクニカルコミュニケーション能力
A1. 調査設計能力	A5. ユーザー体験の構想・提案能力	A8. 製品・システム・サービスの要求仕様作成能力	A12. ユーザーによる評価実施能力	B1. プロジェクト企画能力	C1. HCD適用・導入設計能力	L1. 文書作成能力
A2. ユーザー調査実施能力	A6. ユーザー要求仕様作成能力	A9. デザイン仕様作成能力	A13. 専門知識に基づく評価実施能力	B2. チーム運営能力	C2. 教育プログラム開発能力	L2. プレゼンテーション能力
A3. 定性・定量データの分析能力	A7. 製品・事業の企画提案力	A10. 情報構造の設計能力		B3. プロジェクト調整・推進能力	C3. 人材育成能力	L3. ファシリテーション能力
A4. 現状のモデル化能力		A11. プロトotyping能力		C4. 手法・方法論開発能力		
HCDに関する理論・関連学問知識・実務知識						
A群から7項目以上				3項目以上(ただし、B群、C群からそれぞれ1項目以上含むこと)		加点項目
A群から6項目以上				-	-	加点項目



申請書 (コンピタンス記述書)



HCD専門家コンピタンス体系

資格認定との対応

B. プロジェクトマネジメントコンピタンス

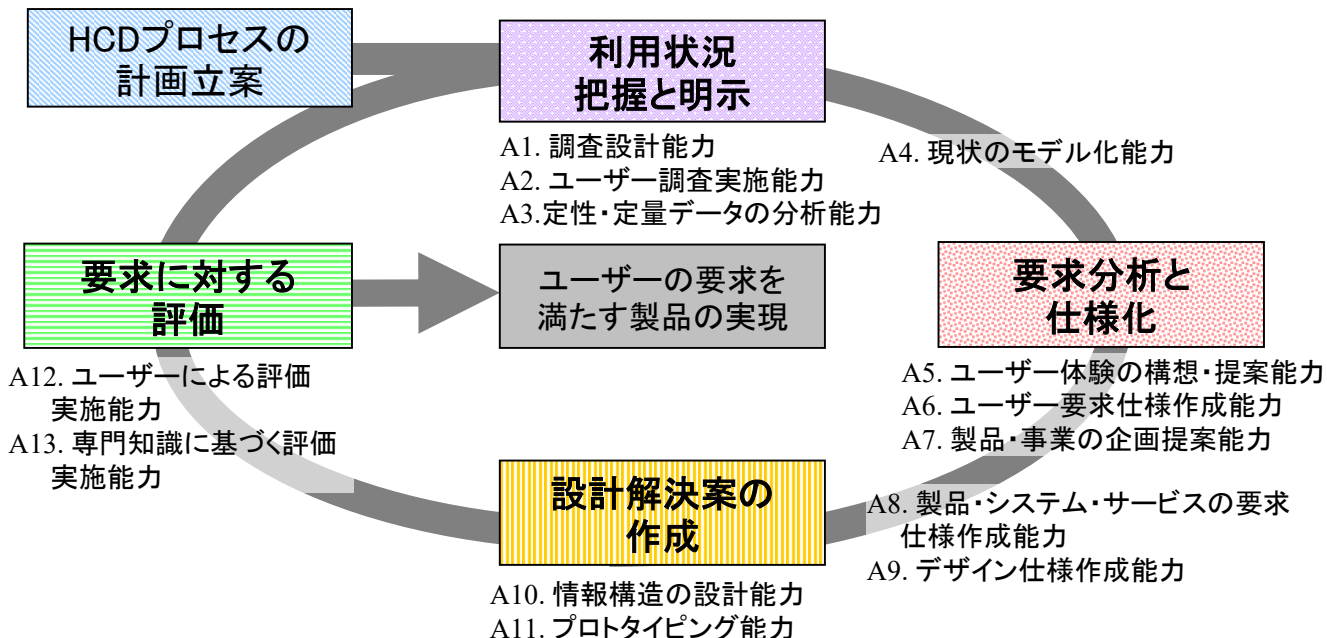
プロジェクトにおいてHCDプロセスを推進しマネジメントすることに関する能力

C. 導入推進コンピタンス

組織に対してHCDを適用・導入し普及・推進することに関する能力

A. 基本コンピタンス

プロジェクトにおいてHCDのプロセスの各活動を実施して適切な成果物を産出できる能力



認定専門家
実務経験5年以上

認定スペシャリスト
実務経験2年以上

L. テクニカルコミュニケーション能力

HCDのプロジェクト及び活動を円滑に実施するために必要となる基礎的なコミュニケーション能力

K. HCDに関する基礎知識

HCDに関する理論・関連学問知識・実務知識

検定 (予定)

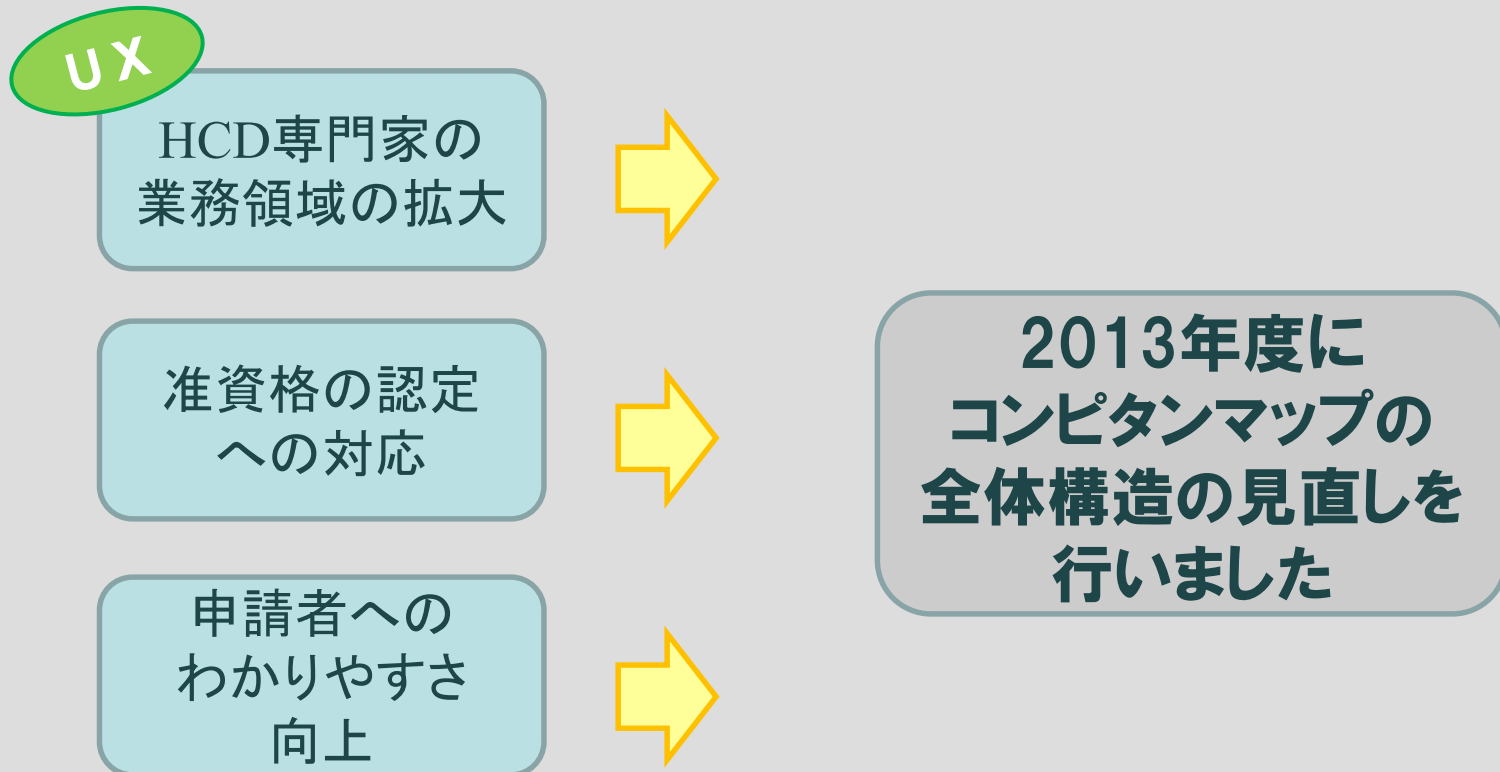
2015年度 コンピタンスマップ

		A: HCD基本コンピタンス				B: プロジェクトマネジメントコンピタンス	C: 導入推進コンピタンス	L: テクニカルコミュニケーション能力
実務能力	A1. 調査設計能力	A5. ユーザー体験の構想・提案能力	A8. 製品・システム・サービスの要求仕様作成能力	A12. ユーザーによる評価実施能力	B1. プロジェクト企画能力	C1. HCD適用・導入設計能力	L1. 文書作成能力	
	A2. ユーザー調査実施能力	A6. ユーザー要求仕様作成能力	A9. デザイン仕様作成能力	A13. 専門知識に基づく評価実施能力	B2. チーム運営能力	C2. 教育プログラム開発能力	L2. プレゼンテーション能力	
	A3. 定性・定量データの分析能力	A7. 製品・事業の企画提案力	A10. 情報構造の設計能力		B3. プロジェクト調整・推進能力	C3. 人材育成能力	L3. ファシリテーション能力	
	A4. 現状のモデル化能力		A11. プロトタイプング能力			C4. 手法・方法論開発能力		
知識	HCDに関する理論・関連学問知識・実務知識							

認定HCD 専門家 必須項目数	A群から 7項目 以上	3項目以上 (但しB群、C群からそれぞれ 1項目以上含むこと)	加点項目
認定HCD スペシャリスト 必須項目数	A群から 6項目 以上	-	加点項目

(参考)コンピタンスマップの見直しについて

- HCD専門家のコンピタンスは、毎年資格認定の前に精査・修正を実施してきたが、今回UXを踏まえた全体的な改訂を行った。



(参考)コンピタンスマップの見直し経緯

- 今年度のコンピタンスマップは、既存の専門家による協力を得ながら、約1年間の検討を経て改訂を行った。

■ 専門家の集いにおける議論

- 2012年11月22日「改めて専門家のコンピタンスを考えるワークショップ」
- 2013年5月24日「これからのHCD/UXD専門家のコンピタンスを考える」

■ コンピタンスワーキンググループにおける議論

■ 理事会での議論



(参考)従来のコンピタンスマップとの差異

- 新規追加2項目、削除3項目(内、統合2項目。削除は旧L2のみ)、カテゴリ変更を伴う修正14項目。
- 知識項目は、認定の対象外とした。

A:HCD基本コンピタンス				B:プロジェクトマネジメントコンピタンス	C:導入推進コンピタンス	L:テクニカルコミュニケーション能力
11. 調査設計能力 (旧11)	21.ユーザー体験の構想・提案能力 (新規追加)	31. 製品・システム・サービスの要求仕様作成能力 (旧21)	14. ユーザーによる評価実施能力 (旧14)	41. プロジェクト企画能力 (旧51)	51. HCD適用・導入設計力 (旧31、旧61)	L1: 文書作成能力
12. ユーザー調査実施能力 (旧12、旧13)	22. ユーザー要求仕様作成能力 (旧18)	32. 情報構造の設計能力 (旧22)	15. 専門知識に基づく評価実施能力 (旧15)	42. チーム運営能力 (旧52)	52. 教育プログラム開発力 (旧32)	L2: プレゼンテーション能力 (旧L3)
17. 定性・定量データの分析能力 (旧17)	23. 製品・事業の企画提案力 (旧42:カテゴリ変更)	33. デザイン仕様作成能力 (旧23)		43. プロジェクト調整・推進能力 (旧53)	52. 人材育成能力 (旧62:カテゴリ変更)	L3.ファシリテーション能力 (新規追加)
16. 現状のモデル化能力 (旧16)		34. プロトタイプング能力 (旧24)			53. 手法・方法論開発力 (旧41:カテゴリ変更)	

(参考)13年度の改訂による追加項目

- A5: ユーザー体験の構想・提案能力
 - ユーザエクスペリエンスデザイン(UXD)に関連するコンピタンス項目として追加されました。
 - 従来のコンピタンスでも、仕様作成能力などのコンピタンスに含意されていました。しかし、UXDでは特にビジョンとしてユーザー体験を提案する能力が求められるため、項目を新設しました。
- L3: ファシリテーション能力
 - 昨今のHCDのプロジェクトではワークショップ形式等、複数の関係者にて検討される活動が増えています。
 - そのため、HCDの専門家がファシリテーターとしても活動できる能力が求められるようになっていきます。
 - しかし、従来のコンピタンスマップでは該当する項目がありませんでした。そこで、新たに項目を追加しました。

2015年度 コンピタンスマップ (再掲)

A: HCD基本コンピタンス				B: プロジェクトマネジメントコンピタンス	C: 導入推進コンピタンス	L: テクニカルコミュニケーション能力	
実務能力	A1. 調査設計能力	A5. ユーザー体験の構想・提案能力	A8. 製品・システム・サービスの要求仕様作成能力	A12. ユーザーによる評価実施能力	B1. プロジェクト企画能力	C1. HCD適用・導入設計能力	L1. 文書作成能力
	A2. ユーザー調査実施能力	A6. ユーザー要求仕様作成能力	A9. デザイン仕様作成能力	A13. 専門知識に基づく評価実施能力	B2. チーム運営能力	C2. 教育プログラム開発能力	L2. プレゼンテーション能力
	A3. 定性・定量データの分析能力	A7. 製品・事業の企画提案力	A10. 情報構造の設計能力		B3. プロジェクト調整・推進能力	C3. 人材育成能力	L3. ファシリテーション能力
	A4. 現状のモデル化能力		A11. プロトタイプング能力			C4. 手法・方法論開発能力	
知識	HCDに関する理論・関連学問知識・実務知識						

認定HCD 専門家 必須項目数	A群から 7項目 以上	3項目以上 (但しB群、C群からそれぞれ1項目以上含むこと)	加点項目
認定HCD スペシャリスト 必須項目数	A群から 6項目 以上	-	加点項目

注意の必要なコンピタンス

- A7. 製品・事業の企画提案力
 - HCDプロセスの上流において、HCDの諸手法を用いて**新製品や、サービスあるいは事業や研究テーマなどを企画提案する能力。**
 - **従来のマーケティング的手法にとどまらず、ユーザー理解のためのHCD諸手法を用いたアプローチに基づいて行われることが期待される。**
- A1.調査設計能力とB1.プロジェクト企画能力の違い
 - A1は、実施する**HCDプロジェクト遂行上必要な調査を**、HCDの観点から課題を適切に掴み、プロジェクトのゴールや**目的に応じて適切な調査・評価の実施過程を組み込み、それらの具体的な実施内容を設計できる能力のこと。**
 - B1は、HCDプロジェクトに必要な要件や前提事項の**全体像**を明確にし、プロジェクトのゴール、プロセス、アクティビティ、**成果物、チーム構成などHCDプロジェクト全体を適切に企画**することが期待される。

注意の必要なコンピタンス

• C1. HCD適用・導入設計力

- HCDプロセスの全部、あるいは一部の導入を計画立案する能力。あくまで、専門的の立場や業務でのオフィシャルな導入であること。
- 企業内でHCDやUX部署の立ち上げる等を含む。
- **導入の動機づけとなる模擬的なユーザビリティテスト実施も含む。**
- 個人的あるいはサークル的な取り組みだけでは、この能力には当たらない。ただし、社内勉強会などの組織内での取り組みは、「**C3. 人材育成能力**」で記述してもよい。

• C2. 教育プログラム開発力

- 組織等へのHCD導入の際に、人材育成プログラムを開発する能力。
- カリキュラム、教材の開発に関することであること。教育の社内制度だけでは十分でない。HCDの内容を理解したものであること。
- あくまで**専門家の立場・業務として**、アドバイザー／コンサルティングとして実施する際を想定している。

注意の必要なコンピタンス

• C3. 人材育成能力

- 組織やプロジェクトをマネジメントする立場から、メンバーのHCDに関するコンピタンスを向上させる能力。
- プロジェクトメンバーに対して、OJTや研修、講義、対話などを通してスキル向上に寄与する。
- あくまで**組織のHCD業務を推進するプロジェクトメンバーとして実施するものを想定している。**

• C4. 手法・方法論開発力

- HCDを実践するために必要となるプロセスや方法論、手技法を研究し、独自に整理・体系化したり、新たな手法を開発したりする能力。
- 個人的な技法の開発では十分でない。**プロジェクトでの活用実績や方法論として外部化(社内レポートや論文等での発表)されていることが必要。**

注意の必要なコンピタンス

- L:テクニカルコミュニケーション能力
 - L1:文書作成能力
 - L2:コミュニケーション能力
 - L3:ファシリテーション能力
- HCD専門家としての専門業務をより円滑かつ効果的に実施する基礎能力。
- ここでいう「テクニカルコミュニケーション」は、専門業務に関わるステークホルダー間のコミュニケーションに必要な能力を意味する。
- いわゆるテクニカルコミュニケーション技術を、専門業務で活用する能力ととらえてもらえればよい。

申請にむけて

- 申請される方は、**必ずコンピタンスの説明を読んだ上で、「コンピタンス記述書」**を作成するようにしてください。
- 審査員は、あくまで定義されたコンピタンスの意味に基づいて審査を行います。
- そのため、コンピタンスの内容を誤解して、申請書を作成していた場合には、評価はされませんのでご注意ください。
- 1つのコンピタンスについて、実務経験の能力を十分読み取れるよう、しっかり記述することにご留意ください。

Part 3

申請書類の書き方

- 「実践活動記述書」とは
- コンピタンス採点のポイント
- プロジェクトの選び方
- コンピタンス記述書の良い例／悪い例
- 合否判定

「B 実践活動記述書」とは

B-1 プロジェクト経歴／業務履歴

B-3 コンピタンス記述書

採点対象は、これだけ

【実践活動記述書 B-1】 プロジェクト経歴／業務履歴
登録番号：
人間中心設計 (HCD)、ユーザビリティに関連したプロジェクト経歴／業務履歴を詳細にご記入ください (必要に応じてページをコピーしてご記入ください)。
年 月 日 氏名
期間 (年) プロジェクト経歴／業務履歴 (年)
記入する期間、半端年でも構いません。業務上の都合により記載する場合は、必ずその理由を記載してください。

3~5プロジェクト
を選ぶ

「自分の実施したこと」を
中心に記述

B-2 プロジェクト記述書 ★改訂しました

プロジェクト全体の概要
をこちらに記述

HCDに関する実務活動を記述